

おいしい米の栽培に努めよう

～平成30年「青天の霹靂」生産販売に関する説明会～

2月7日と8日、平成30年「青天の霹靂」生産販売に関する説明会を黒石基幹支店・常盤基幹支店・本店で開き、作付け者約160人が参加した。

県農林水産部農産園芸課は土壌診断に基づいた土壌改良や「青天の霹靂」の出荷基準、生産者登録などの生産販売対策、中南地域県民局は栽培課題と対策、JAは出荷体制などを説明した。

当JAの29年産の出荷基準（玄米タンパク質含有率6.4%以下、検査等級1等及び2等）達成率は生産者の努力のおかげで99.6%と高い達成率となった。

30年産は、340経営体で943畝の作付けを予定。おいしい米を全国に届けるため、生産者や関係団体が一体となり栽培に努める。

2月28日、一般財団法人日本穀物検定協会の平成29年産米の食味ランキングで、「青天の霹靂」が4年連続（参考品種時含む）特A評価となりました！



説明を聞く生産者

生産目標

- 1 玄米タンパク質含有率の目標
水分15%換算で6.0%以下（乾物換算で7.0%以下）
- 2 収量目標 9俵/10a程度
- 3 適正な生産工程管理
自己点検チェックシートによるチェック

栽培基準

- 1 土壌診断に基づく土壌改良
・土壌改良は、土壌診断結果に基づく処方箋に従って行うことが基本。
・ケイ酸分は食味向上の効果が期待できることから、不足分はケイ酸質資材を必ず投入。ただし、処方箋の投入量がケイカル換算で100kg/10aを超える場合は、少なくとも100kg/10aの投入が必須。
- 2 農薬使用回数（成分）は通常の2分の1以内
- 3 種子更新率100%
- 4 栽培管理記録の記帳

出荷基準

- 1 玄米タンパク質含有率の基準
水分15%換算で6.4%以下（乾物換算で7.5%以下）
- 2 検査等級 1等及び2等



あいさつする古川会長



組合長表彰の石澤せい子さん

優良生産者9人を表彰

～常盤やさい花卉生産者大会～

常盤基幹支店管内のニンニク、花卉などの6つの生産者組織から構成される常盤ソサイ研究協議会（古川正衛会長）は2月13日、常盤基幹支店で平成29年度常盤やさい花卉生産者大会を開き、会員や市場関係者ら約100人が参加した。

同大会は、各部会の取り組みや今後の計画を横断的な視点で捉え、課題の共有や意識の高揚を図り、地域の野菜・花卉生産の発展に寄与するために開催。古川会長は「受賞した方々には、生産者の模範となるよう今後一層の活躍を期待している」と話した。

29年度の各組織の事業経過や販売実績を報告したほか、健全生産技術を称え優良生産者9人に表彰状を授与した。